

機関番号：82646

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20700660

研究課題名（和文） ティーチング・ポートフォリオ作成支援システムの開発

研究課題名（英文） Development of a support system for compiling the teaching portfolio

研究代表者

栗田 佳代子 (KURITA KAYOKO)

独立行政法人大学評価・学位授与機構・評価研究部・准教授

研究者番号：50415923

研究成果の概要（和文）：

本研究は、大学教員が「評価」の主体として大学内外の各種評価に能動的に取り組み、また、自らの教育の質の改善の主人公となるための意識改革を生じさせるしくみであるティーチング・ポートフォリオについて、作成者、作成支援者をサポートするための統合的なシステムの開発を行った。本システムは、<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>において公開された。

研究成果の概要（英文）：

In this study, we developed a consistent support system for compiling the teaching portfolio, which included a portfolio database, a guide for the teaching portfolio concept, information about event and news, resource information and a compiling system of the first draft. This system is open to public at <http://www.teaching-portfolio-net.jp/>

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：総合領域 科学教育・教育工学

科研費の分科・細目：教育工学

キーワード：メディアの活用、ティーチング・ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

日本の大学は内外の様々なレベルの評価にさらされかつ Faculty Development(FD)への組織的な取組みの義務化に象徴されるように組織的な教育改善の取組みも求められている。

しかしながら、こうした状況におかれている大学教員は既に評価に「疲れ」、そしてFD活動に対しても消極的であるとされ、結果として評価、FDともに活用が進まないという機能不全が指摘されている。この主因として、これらに教員自身の自律性が伴っていない

ことが指摘されている。つまり、評価活動およびFD活動に対して本来主体であるべき教員がこれらに「自律的に」取り組めていないということである。

そこで、教員の主体性を回復することを支援するシステムとして、研究代表者はティーチング・ポートフォリオに注目した。ティーチング・ポートフォリオ(以下ポートフォリオ)とは「大学教員が自分の授業や指導において投じた教育努力の少なくとも一部を、目に見える形で自分および第三者に伝えるために効率的・効果的に記録を残そうとする教育

業績ファイル」であり、1980年代に登場しアメリカ・カナダにおいて教員評価および教育改善の手段として広く普及している仕組みである。近年の傾向としては、ウェブ型のポートフォリオが、利便性や柔軟性、公開範囲の広さという点で注目されている。

ポートフォリオは教育活動の情報の集積点となると同時に、作成プロセス自体が内省を伴うために大学教員は自らの教育活動を深く考えるきっかけを与えられる。その結果として、これまで教員にとって「作業負担」でしかなかったものが、「評価」は自らの活動の当然の責任としてとらえ、「FD」は自らの活動の改善のための権利として考えるという意識の転換が期待される。このように本研究では、ポートフォリオを教員の意識改革を促すシステムとしてとらえ、ポートフォリオが作成できる統合的環境を提供することを主目的としている。

2. 研究の目的

本研究ではティーチング・ポートフォリオ作成支援プログラムの開発および提供を目的としている。本研究期間内に明らかとなる／実現予定事項は以下の3要素である。

A. ティーチング・ポートフォリオの歴史、概要、および現在抱える課題を明らかにする

- ティーチング・ポートフォリオとは何か、いかに普及したのか
- 現在どのような位置づけで用いられているのか、問題点は何か
- ウェブ型のポートフォリオプログラムにはどのようなものがあるか
- ポートフォリオ作成に必要な環境とはどのようなものか

B. ティーチング・ポートフォリオ作成支援プログラムの試験的提供

- ポートフォリオについて収集された情報をリソースとして提供
- ポートフォリオ作成のためのソフトウェアの提供
- オンラインを利用した一対一の作成支援の実施

C. ティーチング・ポートフォリオ作成支援プログラムの本格的実用化に向けた統合システムの構築に必要な構成要素、構造、提供体系、周辺環境などの諸要因の明確化

3. 研究の方法

平成20年度はティーチング・ポートフォリオの内容、歴史的経緯を含めた文献研究を中心とした調査を進める。また、大学におけるティーチング・ポートフォリオに関連する体制、特にウェブ型のポートフォリオのシステムに関して事例を多く集め、その構造や制

度設計などについて大学規模やポートフォリオの目的などの観点から整理を行う。これらの調査結果は日本の状況に適応したティーチング・ポートフォリオ作成支援システムの設計のための参考資料として用いる。

平成21年度はポートフォリオ作成支援システムの開発を行う。年度前半に制度設計を終え、後半には試験的な運用を開始する。本年はコンピュータ、サーバ、ウェブサイトなどに関する専門知識が必要となるため、適宜専門家との相談をしつつポートフォリオ作成支援システムを完成させる。

平成22年度までには作成支援システムを暫定公開し、実際に各大学FDセンター所属の大学教員等に利用してもらい、開発されたシステムについての逐次フィードバックを得て改版に努める。そして、事例を重ね、最終的には実用に堪えるシステムとして正式な公開を目指す。

本研究で提供されるポートフォリオ作成支援システムの特徴は以下の通りである。

特徴

- ◇ ブログ作成のように容易にティーチング・ポートフォリオを作成
- ◇ 音声、画像、動画などさまざまな資料を添付可能
- ◇ 編集段階においてメンターとのコミュニケーションをとるための会議室設置
- ◇ 公開段階では公開範囲を指定
- ◇ ポートフォリオ作成のための様々な情報を集めたポータルサイトの一部としての位置づけ

4. 研究成果

平成20年度は、ティーチング・ポートフォリオの内容についての文献研究にとどまらず、様々な角度からの調査を行った。実際にティーチング・ポートフォリオの作成ワークショップ企画実施、ティーチング・ポートフォリオに関する講演、遠隔型のティーチング・ポートフォリオ作成メンターとしての活動などを積極的に行い、それらの参加者および聴衆に対してアンケート調査を逐次実施し、ティーチング・ポートフォリオに関してどのような情報が必要であるのか、また、どのようなシステムが有効であるのかについてのデータを得た。

また、海外の大学のウェブサイトの調査を行い、ティーチング・ポートフォリオに関してCTL(Center for Teaching and Learning)等がどのような情報やサービスを提供しているのかについて情報収集を行った。5月には、アメリカのテキサス・クリスチャン大学で行われたアカデミック・ポートフォリオ(ティーチング・ポートフォリオの拡張版)の作成ワークショップに参加し、自らティー

チング・ポートフォリオに加えてアカデミック・ポートフォリオの作成をした。さらに、CTLの所長にインタビューを行い、その活用方法やサポート体制について情報を得た。

日本における作成ワークショップ実施時(8月)以降、ワークショップ参加者との情報共有の場としてWikiシステムを利用して試行的なサイト構築を試み、本格的なサイト構築に向けてのコンテンツや構成について検討を行った。

以上の成果の一部は学会において発表され、報告書としてまとめられた。

平成21年度はこのシステム開発にあたり、複数の大学において実施した講演活動およびワークショップ、学会発表の際に得られた質問紙調査やインタビューなどから、ティーチング・ポートフォリオに関する情報提供や情報共有、作成支援を目指したシステムを設計し、実際に構築し、その一部を公開した。

作成支援システムとしてのウェブサイトの基本的な構成は、知識提供・知識共有・作成支援の三部構成となっているが、知識提供の一部分であるティーチング・ポートフォリオに関する基本説明および意義、知識共有の一部分である学会・ワークショップ情報、最新情報などについて順次公開を行った。作成支援部分については、特に自己省察の促進を目的とした形式を考案し、プロトタイプを作成を行った。また、経験の浅いメンターを支援する目的で構築されたポートフォリオ・データベースを構成に含めているが、これについては、本年においてキーワードの選択や各ポートフォリオの分類作業などを行い、「参考にしたいポートフォリオがすぐにひける」ことを目的とした試験的データベースが完成した。

本ウェブサイトの公開は、現状では不足していると言わざるを得ない、ティーチング・ポートフォリオについての情報を一元的に集約できる場として機能し得るという点で意義が大きい。また、プロトタイプにとどまっている部分もあるものの、作成およびメンターに対する様々な支援の方向性・必要性を示したという点も重要であろう。

平成22年度にティーチング・ポートフォリオについての総合的な情報提供をはかり、作成者とメンターのための支援システムをウェブサイト・コンテンツとして試験的に開始しているが

(<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>)、本年はこの本格的稼働を目指して評価と検証および公開に向けたプロセス遂行を主とした研究を実施した。具体的には、(1)ポートフォリオ作成のための事前課題作成支援プログラム、(2)作成およびアドバイスの際に参考となるポートフォリオの検索のためのポートフォリオ・データベース、(3)ポー

トフォリオに関する文献情報等をまとめたリソース・参考文献、の3コンテンツについて公開に向けた評価および検討を行った。その結果、(3)については既に公開し、(1)、(2)は公開前の最終的なチェックを終え、平成23年度に公開の運びとなる。

ティーチング・ポートフォリオを導入する機関は年々増加しており、ポートフォリオの作成者は2010年末時点で既に100名を超えている。今後ポートフォリオがその有効性を維持したまま形骸化することなく正しく普及するためには、ポートフォリオに関する必要な情報の提供と労力を要する作成プロセスを支援するためのプログラムが不可欠である。これらの観点から、本システム開発によって提供された情報および支援環境の意義は大きい。今後は、本システムの全コンテンツの公開と、全国のポートフォリオに関心のある組織・個人のネットワーキングの場として機能させるような仕組みを加えていくことが必要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① Kurita, K. (印刷中) Structured strategy for implementation of the teaching portfolio concept in Japan, International Journal for Academic Development 査読有

② 栗田佳代子・加藤由香里・井上史子・尾澤重知・北野健一・城間祥子・皆本晃弥 (2010) 「ティーチング・ポートフォリオ：導入の意義と可能性」大学教育学会誌 32(2), 55~59 査読無

③ 江本理恵, 尾澤重知, 加藤由香里, 酒井陽一, 堀井祐介, 栗田佳代子, 古賀暁彦 (2009) 「ラウンドテーブル 教育改善のための教育情報アーカイブス -オンライン授業公開から電子ティーチング・ポートフォリオまで-」大学教育学会 31(2), 88~91 査読無

[学会発表] (計4件)

① Kurita, K. (2010) Dissemination of the Teaching Portfolio in Japan, 35th Annual POD Conference, Professional and Organizational Development Network in Higher Education, 2010.11.5 St.Louis, USA

② 栗田佳代子 (2009) 「ティーチング・ポートフォリオとアカデミック・ポートフォリオ」大学教育学会第31回大会 2009.6.7 首都大学東京

③ 栗田佳代子・尾澤重知・加藤由香里・北野健一・三田地真実・佐藤浩章 (2009) 「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップから見た今後の課題と可能性」 第15

回大学教育研究フォーラム ラウンドテーブル, pp.124-125, 2009.3.21 京都大学

④栗田佳代子(2008)「米国版ティーチング・ポートフォリオワークショップの実施と日本型構築に向けての試み」大学教育学会第30回大会 2008.6.8 目白大学

〔図書〕(計1件)

①大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳 ピーター・セルデイン, エリザベス・ミラー著(2009)『アカデミック・ポートフォリオ』玉川大学出版部 364 (Peter Seldin and J. Elizabeth Miller (2008) The Academic Portfolio: A Practical Guide to Documenting Teaching, Research, and Service, Jossey-Bass Higher and Adult Education)

〔その他〕

＊ホームページ

Teaching Portfolio Net

<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>

＊報告書

①栗田佳代子(編)(2009) 評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書「日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題—ワークショップから得られた知見と展望—」大学評価・学位授与機構

＊講演

①栗田佳代子(2011)「ティーチング・ポートフォリオの目的・意義・構造」文部科学省大学連携支援プログラム第6回畜産基盤GPセミナー 3.7 宮崎大学

②栗田佳代子(2009)「教育の評価と改善—ティーチング・ポートフォリオの活用—」12.22 長野工業高等専門学校

③栗田佳代子(2009)「教育者としての自分を振り返る」関西工学教育協会・高専部会 平成21年度秋期研修セミナー 12.4 メルパルク京都

④栗田佳代子(2009)「教育におけるポートフォリオとは何か」広島大学 FD 講演会 11.30 広島大学

⑤栗田佳代子(2009)「FD と教育業績の考え—ティーチング・ポートフォリオを中心に」FD 講演会 11.19 大妻女子大学

⑥栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオとは何か」11.14 立命館大学

⑦栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオとは何か」10.30 聖マリア学院大学学内研修会

⑧栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオを学ぼう」、普遍教育センター拡大大学習会・全学 FD 研修会 9.1 千葉大学

⑨栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポート

フォリオとは何か？」SPOD フォーラム 9.9 愛媛大学

⑩栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオとは」ティーチング・ポートフォリオ FD 講演会・ミニワークショップ 7.30 大分大学

⑪栗田佳代子(2009)「教育改善—ティーチング・ポートフォリオ—」平成21年度教員夏期研修会 7.28 阿南高専

⑫栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオとは何か」平成21年度第二回(第16回)佐賀大学 FD・SD フォーラム 7.6 佐賀大学

⑬栗田佳代子(2009)「自らの教育活動についての授業評価の価値」第二回関西地区 FD 連絡協議会主催公開勉強会「授業評価から FD 評価へ」3.19 京都大学

⑭栗田佳代子(2008)「ティーチング・ポートフォリオって何だろう？」第三回大学教職員のための FD セミナー, 12月 八王子セミナーハウス

⑮栗田佳代子(2008)「何を, なぜ教えてください—ティーチング・ポートフォリオのすすめ—」9月 大阪府立工業高等専門学校

⑯栗田佳代子(2008)「ティーチング・ポートフォリオの可能性と課題」9月 九州大学

⑰栗田佳代子(2008)「ティーチング・ポートフォリオを味方につけるために」8月 愛媛大学

6. 研究組織

(1)研究代表者

栗田 佳代子 (KURITA KAYOKO)

大学評価・学位授与機構・評価研究部・准教授

研究者番号: 50415923

(2)研究分担者

該当無し

(3)連携研究者

該当無し